

AKAYA PROJECT

赤谷プロジェクト地域協議会／(公財)日本自然保護協会／林野庁関東森林管理局

「赤谷の森・基本構想2020」の概要

2020.3.15

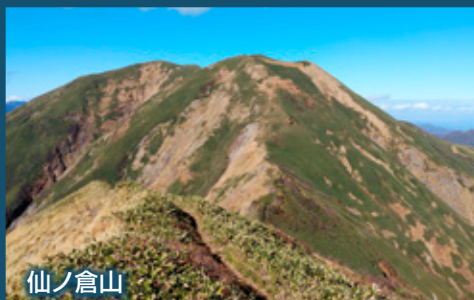
赤谷の森だより
特集号



南ヶ谷林道から赤谷の森全域を望む (2019.11.18撮影)



イヌワシ



仙ノ倉山



ツキノワグマ

「赤谷の森・基本構想」は、赤谷プロジェクトが取組む森づくりの基本的な考え方をとりまとめたものです。2020年2月に改定した「赤谷の森・基本構想2020」の概要をお知らせします！

赤谷プロジェクトとは…

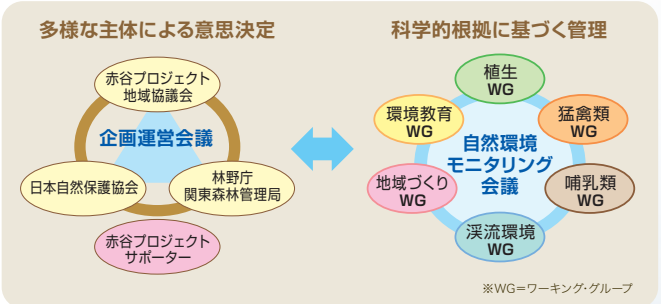


- エリア1・赤谷源流エリア 巨木の自然林の復元とイヌワシ営巣環境保全
- エリア2・小出俣エリア 植生管理と環境教育のための研究・教材開発と実践
- エリア3・法師沢・ムタコ沢エリア 水源の森の機能回復
- エリア4・旧三国街道エリア 旧街道を理想的な自然観察路とするための森づくりと茂倉沢での溪流環境復元
- エリア5・仏岩エリア 伝統的な木の文化と生活にかかわる森林利用の研究と技術継承
- エリア6・合瀬谷エリア 実験的な、新時代の人工林管理の研究と実践

点線区域「緑の回廊」地域
野生生物の移動経路の確保と
保護地域の連続性向上



2003年11月に発足した三国山地／赤谷川・生物多様性復元計画（赤谷プロジェクト）は群馬県みなかみ町新治の北部、新潟県との県境に広がる、約1万ヘクタールの国有林「赤谷の森」を舞台に、生物多様性の復元と持続的な地域づくりを進める取組です。本プロジェクト



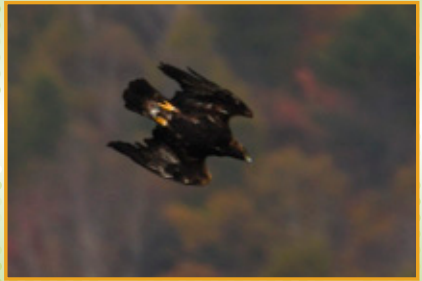
別課題毎に専門家に実務担当者によるワーキンググループを設置し、多様な主体ともモニタリングなどの活動を推進する体制が確立

クトは、運営の中核団体となる地域住民で組織する「赤谷プロジェクト地域協議会」、「日本自然保護協会」、舞台となる国有林を管理する「林野庁関東森林管理局」の3つのセクターの協働により進めています。

赤谷プロジェクトの特徴は、①赤谷の森」の管理・運営において、中核団体が「現実の森が将来どうなっていくか」を出し合った上で、地域を重視した合意形成・意思決定を行い、地域管理経営計画等の公的な計画に反映させる仕組みが確立していること、②生物多様性に係る課題を反映するため、科学的取組を審議する「自然環境モニタリング会議」を常設し、普遍性を重視した管理体制が確立していること、③個

イヌワシの狩場創出試験

赤谷プロジェクトでは、イヌワシの営巣環境保全のため、試験的にスギ人工林の一部を伐採し、ハンティング場所を創出するとともに、人工林を自然林へ誘導する取組を実施しています。



狩場に現れたイヌワシ



イヌワシのモニタリング

ニホンジカの低密度管理のための対策



鈷塩によるシカの誘引試験



くくり罠の設置作業



センサーカメラ



囲い罠



箱罠



捕獲された雌シカ

改定のポイント

「赤谷の森・基本構想2015」改定以降は、イヌワシの狩場創出試験や低密度下でのニホンジカの捕獲試験の実施などの生物多様性復元の取組のほか、赤谷の森の水の恵みを生かしたみなかみ田んぼプロジェクトなどをはじめ、

していることの3点に集約されます。このような赤谷型の森林生態系管理の枠組みは、協定締結から現在までの3者協働による赤谷プロジェクト運営の中で、確立されてきました。

地域の若者と連携した持続的な地域づくりの取組も広がってきています。また、2017年にみなかみ町がユネスコエコパークに登録された際に、赤谷プロジェクトの取組がその理念と合致する地域の中核的な取組の一つとして位置づけられました。こうした背景を受け、主に次の点について改定を行いました。

ニホンジカの低密度管理 (シカを低密度のまま増やさせない)

赤谷の森の生物多様性を復元し維持していくためには、人の暮らしと動物との軋轢を解消し、共生に向けて取り組むことが必要です。このため、今後、森林生態系への影響が懸念されるニホンジカについては、侵入を前提としたニホンジカ管理と森林施業を推進していきます。また、独自に設けている「摂食状況の現状評価の考え方と評価基準」に基づいたモニタリングの継続のほか、近年、食害が発生しつつある三国山の花畑の調査・対策の実施、ニホンジカを低密度の状態に管理するための捕獲手法の検討と管理計画・体制づくり(ワイルドマネージャの育成、配置も含む)を進めます。

みなかみユネスコエコパークとの連携強化

赤谷プロジェクトにとって、「赤谷の森」が位置する地元のみなかみ町との

関係と連携は大変重要であり、これまでも赤谷プロジェクトとみなかみ町は、自然散策会をはじめとした取組を連携して実施してきました。また、ユネスコエコパークの登録を契機として、みなかみ町と連携し、赤谷プロジェクトで培った調査方法や知見を活かしたイヌワシ、ニホンジカ等の調査を開始しています。さらに、連携を強化するため、みなかみ町長や関係職員にご出席いただき、2020年2月に「みなかみ町意見交換会」を開催しました。今後、「赤谷プロジェクト」みなかみ町連携会議」として定期的に情報交換と意見交換を行い、両者が相乗効果を発揮しながら発展することを目指していきます。



赤谷の森自然散策(秋)



みなかみ町意見交換会

これまでの取組から得られた 新たな知見の発信を推進

森と人との関係が希薄になりつつある現代社会において、森の恵みに気づき、森と人との新たな関係をつくり出して行くため、赤谷プロジェクトは今後も様々な取組を行いつつ、得られた知見についてはプロジェクト内部に留めず、全国に波及させていく必要がある

自然林復元試験

赤谷プロジェクトでは、人工林を伐採して植栽を行わずに目標とする潜在自然植生で構成される自然林に効率よく復元するための手法を確立するため、自然林からの距離、伐採の幅や形、伐採前に生育していた樹種の違いなどに着目して試験的な取組をしています。



2007年6月30日撮影



2009年6月23日撮影



2014年10月19日撮影



2019年6月27日撮影

「赤谷の森・基本構想2020」の概要

森の恵みを活用した 地域産業活性化の取組を推進

「赤谷の森」の恵みを活かした産業づくりを目指して、2011年から、日本の教育用カスタネットを発明し、50年以上にわたって日本全国の小学生が使うほぼ全てのカスタネットを製造してきたカスタネット工房との連携によって、地域の木材によるカスタネット製造を再開し、地域の特産物として、観光のお土産や、イベント、教育旅行等で活用されています。

2016年からは、赤谷川を農業用水として利用する須川の水田で無農薬の米づくりを行い、そこで収穫された米は、利根川で繋がる千葉県神崎で創業340年以上になる酒蔵で日本酒の原料として利用されています。2019年からは、みなかみ町内で四代にわたる桐専門の木工業者と連携し、いきもの村に桐の植栽を行いました。



カスタネット工房



田んぼプロジェクト



桐の植栽

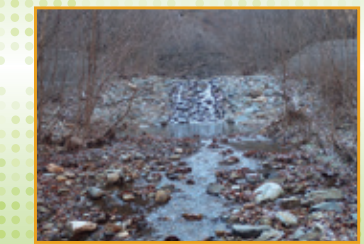
地域の木材産業と連携して、地域に新たな価値をつくりだす取組も開始しています。今後も赤谷の森の恵みを持続的に利用し、その対価が地域と森の管理に還元され、森がより豊かになるような仕組みの実例をつくり続けていきます。

溪流環境における生物多様性の復元

赤谷プロジェクトでは、森林の生物多様性の特徴の一つである豊かな溪流生態系の保全と、土砂流出等による災害防止の両立を目標としています。茂倉沢においては試験的に治山ダムの中央部撤去等による上下流の連続性の確保と、治山機能の両立に向けた取り組みを行っています。



2009年11月に中央部を撤去した「茂倉沢2号治山ダム」



斜路を備えた「茂倉沢5-2号治山ダム」

【赤谷の森・基本構想掲載サイト】

●林野庁赤谷森林ふれあい推進センター

https://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/-/akayanomori-kihonkousou2020.html

サポーター募集中!

赤谷プロジェクトではプロジェクトに参加していただける赤谷プロジェクト・サポーターを募集しています! お問合せは、(公財)日本自然保護協会(担当:出島)までご連絡ください。お待ちしております!

この情報誌は、間伐材利用の紙を使用しています。

赤谷プロジェクト地域協議会

TEL 0278-25-8777

※森のおもちゃの案内

理事 本多 結

メールアドレス y-honda@takuminosato.or.jp

(公財)日本自然保護協会【NACS-J】

TEL 03-3553-4107

プロジェクト担当 出島 誠一

http://www.nacsj.or.jp/akaya/index.html
メールアドレス akaya@nacsj.or.jp

林野庁関東森林管理局
赤谷森林ふれあい推進センター

TEL 0278-60-1272

所長 佐藤 健司

http://www.rinya.maff.go.jp/kanto/kanto/akaya_fc/index.html
メールアドレス ks_akaya_postmaster@maff.go.jp